

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：12608
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：20K12862
研究課題名（和文）ソヴィエトのメディア・アートとしてのキネチズム

研究課題名（英文）Kinetism - Soviet Media Art

研究代表者

河村 彩（kawamura, aya）

東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・准教授

研究者番号：20580707

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：世界有数のソヴィエト非公式芸術の作品を所蔵するラトガース大学附属Zimmerli美術館、およびテッサロニキ近代美術館コスタキ・コレクションにて調査を行った。戦争のためにロシア国内で予定していた調査は不可能となったため、代わりにキネチズムとも関連のあった中東欧の戦後美術の調査を、ブダペスト及びプラハの国立近代美術館において行った。またキネチズムとも共通する動向を示したものとして、大阪万博での太陽の塔および具体美術協会による展示物の調査を行った。キネチズムについては査読論文「宇宙開発時代のメディア・アート：ソヴィエト連邦のキネチズム」を發表し、ソヴィエト非公式芸術に関しては4つの論考を發表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

論文「宇宙開発時代のメディア・アート」ではキネチズムを「東側」のメディア・アートとみなし、ロシア構成主義とコスミズムの影響、および背景としての当時の宇宙開発と宇宙ブームを明らかにしながら、公式/非公式というソ連の美術の枠組みの捉え直しを試みた。

また研究期間中に發表したソヴィエト非公式芸術についての4つの論考では、これまであまり考察されてこなかった作家と作品を分析し、ヨーロッパおよびアメリカを中心とする現代美術史に対するオルタナティブとしての非公式芸術の特異性を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：I conducted my research at Zimmerli Museum in Rutgers University and Costaki Collection in Thessaloniki Modern Museum, which have a great collection of Soviet art works. Because of the war in Ukraine I could not conduct my research in Russia. Instead of that I did research about post war art in middle east in national museums in Budapest and Prague. I also did my research at the Tower of Sun and the Museum of Osaka Expo 1970, where works and designs related to Kinetism were exhibited.

I published a peer-reviewed paper "Media Art in the age of Space Exploration: Kinetism in the Soviet Union" and four articles "Fights and Escapes: Nonconformist Art in the Soviet Era," "White by Ilya Kabakov," "Plays in Soviet Nonofficial Art," "Other Forms of Resistance in Russia and Soviet."

研究分野：近現代美術、ロシア文化

キーワード：キネチズム キネティックアート 非公式芸術 社会主義芸術 カバコフ インファンテ 運動グループ コレイチュク

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1960年代以降、ビデオ映像やコンピュータ・グラフィックなどデジタル・テクノロジーを用いた作品が世界中で制作されるようになった。環境や空間全体を利用したインスタレーションや、コンピュータ・ソフトを駆使した作品が制作され、ビエンナーレやトリエンナーレといった芸術祭の興隆とともに、メディア・アートは現代ますます拡大しつつある。だが、これまで戦後メディア・アートの起源と歴史は、ヨーロッパやアメリカ、そして日本など「西側」にほぼ限定されて考察されている。本研究は、これまで看過されてきた「東側」の戦後美術の動向に着目し、ソヴィエトのキネチズムがいかんにしてメディア・アートの先駆のひとつとなったのか、そして社会主義国ソヴィエトという地域で発展したことに由来する特異性はどのようなものであったのか明らかにする。

近年、モスクワ・コンセプチュアリズムや、ソツツ・アートといった1970年代の非公式芸術に関しては、ロシア国内での現代美術に対する関心の高まりや現代美術館の整備に伴い、多数の展覧会が開催され、作家の日記やモノグラムの出版が相次ぐなど、きわめて活発に研究がおこなわれている。

一方、キネチズムの研究に関しては、個々の作家のアルバムや展覧会カタログを除いては、美術家コレイチュクによる書籍『キネチズム』(1994)による包括的な紹介にほぼ限られている。申請者はすでに2018年の8月から9月にかけて現代美術館「ガラージュ」の招聘でモスクワに滞在し、当館のアーカイヴおよびモスクワ近郊の美術館でキネチズムに関する調査を行い、キネチズムについての情報の一部をすでに得ているが、それ以外にも調査すべきものや、キネチズムを取り巻く芸術や社会背景の調査が必要であった。

2. 研究の目的

本課題ではキネチズムの特異性を考察するにあたって、1)モスクワ・コンセプチュアリズムなど同時代の非公式芸術との関係はどのようなものであったのか、2)20世紀初頭のロシア・アヴァンギャルドの課題をいかに発展させどのような影響を受けているか、3)サイバネティクスや宇宙開発といった当時のソヴィエトにおける科学技術の発展をどのように受容し表現しているか、の三点に焦点を当てた。

3. 研究の方法

本研究は文献資料調査および国外の美術館、博物館、図書館で調査を行った。国内では、ネット上に掲載された資料を多く利用したほか、ロシア・ソヴィエト文化に関する文献を多く所蔵する早稲田大学でも調査を行った。国内の図書館所蔵資料に関しては、東京工業大学付属図書館のILLを利用して取り寄せた。現代美術一般の文献に関しては、国立近代美術館、国立新美術館、東京都立写真美術館の図書館を利用した。

4. 研究成果

・令和2年度

当該年度は新型コロナウイルス感染拡大のために現地での資料調査が不可能であったので、これまでの調査で収集した資料及び新たに入手した資料を元に、1960年代から70年代にかけてのソヴィエトのキネチズム、とりわけヴァチスラフ・コレイチュクと「運動」グループの活動に焦点を絞って考察を行った。これらの作品を考察するにあたり、1920年代の構成主義およびナム・ガボやカンディンスキーらアヴァンギャルドの理論と実践をいかに受け継いでいるかという点を重視した。また当時宇宙開発に成功し、科学技術立国であったソヴィエトにおいては、キネチズム作品は国内外の科学エキスポにおける「装飾」として制作されたが、その背景にはヴェルナツキーらのロシアコスミズムと呼ばれる思想の影響があることを考察した。公的な場で展示されたキネチズム作品と、モスクワ・コンセプチュアリズムを代表する他の非公式芸術との違いにも焦点をあてた。研究成果は表象文化論学会学会誌『表象』第15号(2021年5月発行予定)に論文「宇宙開発時代のメディアアート：ソヴィエト連邦のキネチズム」というタイトルで発表した。

・令和3年度

本年は、主として文献調査を中心に、1960年代から70年代にかけて科学エキスポや博覧会な

どの場で公開されたキネチズム作品の考察を行った。また昨年度に引き続き、レフ・ヌスベルクを中心に活動した「運動」グループの結成から決別までの動向、彼らがソヴィエト国内外のイベントや科学技術エキスポに出展した「装飾」をそのプランとともに考察した。そして、運動グループの美学の背景にあったロシアコスミズムと呼ばれる宇宙をめぐる一連の思想の調査を行った。

本課題の最終的な目的はヨーロッパおよびアメリカを中心とする現代美術のオルタナティブとしてソヴィエトの戦後美術を明らかにすることにある。当該年度は新型コロナウイルスおよびロシアによるウクライナ侵攻のために美術館等が閉鎖し、現地での資料調査が不可能であった。本課題の最終目的を踏まえた上で、同時代に「地下」で密かに展開されたモスクワ・コンセプチュアリズムやリアノゾヴォ派、ソツ・アート等非公式芸術の文献調査を進め、キネチズムの作家との交流関係、美学上および芸術運動としてのキネチズムとそのほかの非公式芸術との差異、両者のロシア・アヴァンギャルドの受容などを考察した。

・令和4年度

当該年度は新型コロナウイルスの流行のために控えていた出張が可能となり、ようやく具体的に研究を進めることができた。2023年2月にはアメリカのラトガース大学附属 Zimmerli 美術館で研究調査を行った。当美術館は世界有数のソヴィエト非公式芸術の作品を所蔵しており、代表的作品の調査を行った。論文図版等に使用する作品の写真数十枚の撮影をおこなうことができた。またソツ・アートの代表的なアーティストであるコマル&メラミードの企画展が開催されており、ほぼ目にすることもなく、カタログにも掲載されていない貴重な個人像の作品の調査を行うことができた。

12月には大阪万博記念公園資料館にて、大阪万博ソヴィエト館の調査および、キネチズムとも関連の深い、万博の美術やパヴリオンを担当した「具体」や岡本太郎ら、1960-70年代の日本の前衛芸術家たちの活動を調査した。また大阪中之島美術館でも「具体」及びその周辺の芸術家たちの活動について調査を行った。

上記の調査をもとにし、当該年度はソヴィエト非公式芸術について、「闘争と逃走 ソヴィエト時代の反体制的な芸術をふりかえる」(『チェマダン 特別号 ウクライナ侵攻とロシアの現在』2022年5月、99-108頁)および「カバコフの白」(『コモンズ』第2号、東京工業大学未来の人類研究センター、2023年2月、70-76頁)の二つの論文を掲載した。

・令和5年度

本年度は夏季にテッサロニキにて代表的なソヴィエト美術の国外コレクションであるコスタキ・コレクションの調査を行い、作品の分析、資料用の写真撮影などを行った。研究期間中に新型コロナウイルスの流行およびそれに続いてウクライナ戦争が勃発したために、当初予定していたロシア国内での調査は不可能となった。その代わりに同時代にキネティック・アートおよびオブ・アートが興隆し、ソヴィエトの美術とも関連のあった中東欧の戦後美術の調査を行った。具体的にはブダペストのヴァザルリ美術館およびハンガリー国立美術館、ブラハの国立近代美術館で第二次世界大戦後の中東欧の現代美術の調査を行った。

研究成果として今年度は、「ソヴィエト非公式芸術のあそび：ゲルロヴィナとインファンテ」(『コモンズ』第3号、東京工業大学「未来の人類研究センター」)および「ロシア・ソヴィエトのもうひとつの抵抗のかたち カバコフと地下芸術の文化」(web ゲンロン、2024年5月1日)の二つのソヴィエト非公式芸術についての論考を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 河村彩	4. 巻 0
2. 論文標題 闘争と逃走 ソヴィエト時代の反体制的な芸術をふりかえる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 チェマダン	6. 最初と最後の頁 99 - 108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 河村彩	4. 巻 2
2. 論文標題 カバコフの白	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 コモンズ	6. 最初と最後の頁 70-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57298/commons.2023.2_70	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 河村彩	4. 巻 15
2. 論文標題 宇宙開発時代のメディア・アート ソヴィエト連邦のキネチズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 表象	6. 最初と最後の頁 117-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 河村彩	4. 巻 3
2. 論文標題 ソヴィエト非公式芸術のあそび：ゲルロヴィナとインファンテ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 コモンズ	6. 最初と最後の頁 102-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57298/commons.2024.3_102	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 河村彩
2. 発表標題 ロシアアヴァンギャルドの衣装と身体表現
3. 学会等名 愛知芸術文化センターダンススコレ（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ロシア・ソヴィエトのもうひとつの抵抗のかたち「カバコフと地下芸術の文化」（webゲンロン、2024年5月1日） https://webgenron.com/articles/article20240501_01
--

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------